2025 年度春期
短期海外プログラム
アメリカ・プレスビテリアン大学語学研修
成果報告書

追手門学院大学
国際連携企画課
2026/9/30
Ver.1.0

1． 概要

2026 年 1 月 31 日から 2 月 25 日までの 26 日間、米国サウスカロライナ州のプレスビテリアン大学で語学研修を実施しており、プログラムの概要と教育内容、その成果についてまとめた。

2． プログラム情報

2.1． プログラム概要

項目	内容
渡航先	米国サウスカロライナ州クリントン プレスビテリアン大学
現地プログラム名	Winter Intensive English Program
渡航期間	2026 年 1 月 31 日～2 月 25 日(26 日間)。現地研修は 2 月 2 日～20 日
参加者数	18 名(男性 8 名、女性 10 名)
引率	なし(現地ではプレスビテリアン大学スタッフが対応)
語学要件	なし
参加費用	99 万 9,800 円(税込)
奨学金	短期海外留学奨励奨学金 4 万円(TOEIC® IP 400 点以上などの条件あり)

2.2． 宿舎

場所	種別
クリントン(語学研修中)	大学敷地内の学生寮(原則 2 名 1 室、男女別フロア)。食事は平日 3 食をカフェテリアで提供。
アトランタ(2/7～8)	ホテル
チャールストン(2/14～15)	ホテル
オーランド(2/21～24)	ホテル

2.3． 現地スケジュール

日程	内容
1/31(土)～2/1(日)	伊丹→羽田→ダラス→グリーンビル・スパータンバーグ着。2/1 にオリエンテーションとキャンパスツアー
2/2(月)～2/19(木)の平日	午前:Grammar、午後:Pronunciation / Readers Theatre、夕方～夜:チューターとの時間・アクティビティ
2/7(土)～8(日)	フィールドトリップ:アトランタ(自由行動、プロバスケットボール観戦)
2/14(土)～15(日)	フィールドトリップ:チャールストン(市街地、アウトレット、海岸から選択)
2/20(金)	帰国準備、送別会
2/21(土)	航空機でオーランドへ移動
2/22(日)～23(月)	フィールドトリップ:オーランド(22 日は自由行動、23 日はウォルト・ディズニー・ワールド)
2/24(火)～25(水)	帰国

３． 教育研究活動の内容

３.１． 全体構成

〇研修は、平日の授業 2 コマ、チューターとの時間、週末のフィールドトリップで構成。
〇授業は、午前の Grammar(10:00～11:30)と、午後の Pronunciation / Readers Theatre(13:30～15:00)の 2 コマ。
〇授業後は、現地学生チューターとの時間（２時間）と各種アクティビティ。
〇週末のフィールドトリップは 3 回実施。アメリカ南部の歴史・文化を学び、学んだ英語を実践が主目的。

３.２． 現地プログラム時間割

日付	午前 10:00～11:30	午後 13:30～15:00	夕方・夜のアクティビティ
1/31(土)	—	—	現地到着(16 時)、買い物
2/1(日)	—	—	15～17 時 オリエンテーション、キャンパスツアー
2/2(月)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	19 時 ゲームナイト チューターとの時間
2/3(火)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	—
2/4(水)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間 18 時 女子バスケットボール観戦
2/5(木)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	19 時 ムービーナイト
2/6(金)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間
2/7(土)～8(日)	フィールドトリップ:アトランタ(7 日 10 時出発、19 時 30 分 バスケットボール観戦、8 日 14 時帰着)		
2/9(月)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間
2/10(火)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間
2/11(水)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	15 時 30 分 ショッピングモールへ外出
2/12(木)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間
2/13(金)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	—
2/14(土)～15(日)	フィールドトリップ:チャールストン(14 日 10 時出発、市街地で自由行動。15 日はアウトレット・市街地・海岸から選択、15 時帰着)		
2/16(月)	Grammar	Pronunciation /	チューターとの時間

		Readers Theatre	
2/17(火)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間 15 時 30 分 近隣都市へ外出
2/18(水)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間
2/19(木)	Grammar	Pronunciation / Readers Theatre	チューターとの時間 18 時 ポットラックディナー
2/20(金)	帰国準備 18 時 30 分 送別会		
2/21(土)～23(月)	フィールドトリップ:フロリダ(21 日移動、22 日自由行動、23 日ウォルト・ディズニー・ワールド)		
2/24(火)～25(水)	帰国		

3.3. 授業・活動の補足

〇Readers Theatre では、アメリカ南部ゆかりの詩の発表と、映画の一場面を演じる課題に取り組んだ。
〇最終試験の前日に、現地スタッフによる勉強会を実施。
〇日本文化を英語で紹介するプレゼンテーションに、有志学生が参加。

3.4. フィールドトリップ

〇アトランタ:公民権運動の地で、南部文化と近代都市が融合した街。プロバスケットボールの試合を観戦。
〇チャールストン:5,000 以上の歴史的建築物がある歴史地区で、南北戦争が始まった地を視察。
〇オーランド:ウォルト・ディズニー・ワールドで、グループごとの自由行動。大学から外に出て、英語での発話に挑戦。

3.5. 事前・事後の学び

〇渡航前に、オリエンテーション 3 回、保険説明動画、危機管理セミナー(オンライン)を実施。
〇帰国後に、TOEIC® IP 受験と報告書提出。
〇帰国後時間をおき、報告書や写真を題材とした振り返り会を実施。

---

4. 成果

4.1. TOEIC® IP スコア(18 名全員が受験)

留学直後に全参加者が TOEIC®IP を受検した。受検に対するモチベーションが高く集中して取り組**んだことから、高い成果を示した。本留学プログラムが対象となっている短期語学留学奨励奨学金の受給条件 400 を超えた学生は 11 名。**

指標	値
平均	453 点
中央値	457.5 点

最高 / 最低	710 点 / 210 点
400 点以上	11 名(61%)
500 点以上	8 名(44%)
600 点以上	3 名(17%)

※400 以上の点数：710 / 665 / 650 / 570 / 565 / 545 / 520 / 500 / 470 / 445 / 405。

4.2. 単位取得状況

4.2.1. プレスビテリアン大学での科目履修

本プログラムは、プレスビテリアン大学が実施する正課科目 ENGL 1010 (English fr INTL Students) を軸とするプログラムとなっており、現地プログラム時間割に適正に参加し一定の学修成果を収めることでプレスビテリアン大学から単位が付与される。

全参加者が 3 単位を修得した。

科目名	単位数	取得者
ENGL 1010(English for INTL Students)	3 単位	18 名全員が単位取得。 (評価：A 15 名。B 3 名。)

4.2.2. 本学の科目認定

事前事後研修に参加し語学試験の受験や報告書提出等を適正に行い、学修目標を達成した学生に対して、本学が共通教育科目として提供する正課科目「短期海外セミナー」の認定を行っている。

全参加者が 2 単位の認定を受けた。

科目	単位数	取得者
「短期海外セミナー」	2 単位	18 名全員が単位認定。 （2026 年度春学期に認定。）

---

5. 学生の声

以下、学生の報告書から抜粋。※3 年生・4 年生は「3 年以上」と表記。

5.1. 活動毎の学生の声

5.1.1. 講義(Grammar・Pronunciation・Readers Theatre)

良かった点
○ **Readers Theatre** では、詩の発表や映画の場面を演じる課題があり、発音も評価されるため大変だった。それでもチューターの協力で何度も練習し、終えたときに受けてよかったと思えた。(2 年)
○ 授業は聞いてノートをとるだけでなく、先生との**やりとりやグループワーク**が多く、**話す機会**が豊富だった。(1 年)
○ 先生の「間違えてもそこから学べばいい」という言葉で、**自信を持って発言**できるようになった。(1 年)
○ 完璧ではない英語でも、先生が理解しようと**懸命に聞いてくれた**ことが自信になった。(1 年)

○ 日本では文法や読解が中心だが、発音の授業があり、**「伝わる英語」の大切さ**を実感した。(3 年以上) ○ 授業中に出てきた分からない単語をメモし、**すぐに会話で使う**ことで、片言でも話せるようになった。(2 年)
改善点
○ 文法の授業で、**副詞と形容詞の使い分け**が難しかった。課題で分からないことが多く、授業後に先生へ質問した。(2 年) ○ **L と R の発音の違い**が分からず、スピーチ発表でつまずいた。事前に発音を練習しておけばよかった。(1 年) ○ **授業開始時刻が当日に変更**され、チューターとの約束と重なった。事前に知らせてほしかった。(2 年)

5.1.2. 現地学生チューター・課外活動・生活面

良かった点
○ チューターに、**分からない点や進め方を聞く時間**があり、とても助かった。(2 年) ○ チューターが**バスケットボールの試合観戦に誘って**くれ、積極的に参加できた。(1 年) ○ **平日の夜にも多くのアクティビティに参加**でき、インプットだけでなく、実際に使う**アウトプットの機会も豊富**で有意義だった。(2 年) ○ 授業外でも、**現地の学生とスポーツ**をしたり**食事**をしたりして、教室では学べない表現や文化に触れられた。(3 年以上) ○ 日本文化を紹介する**有志のプレゼンに参加**し、英語を話す自信がついた。(1 年) ○ 試験前日に**現地スタッフが勉強会**を開いてくれ、積極的に参加した。(2 年) ○ アメリカの地域や人柄を知ることができ、以前持っていた**「怖い」という印象が変わった**。(2 年) ○ 自由行動中に帰れなくなって困った際、**居合わせた現地の方が助けて**くれ、アメリカの人の優しさに触れた。(1 年)
改善点
○ 現地学生とスポーツをする機会はあったが回数が少なく、**もっと多くの現地学生と交流**できればよかった。(2 年) ○ 出発前に伝えられた**集合場所と実際の場所が違った**り、集合時間に遅れたりすることがあった。**迎えが来ず、食堂が閉まる直前に帰って急いで食事**をした日もあった。(2 年、3 年以上) ○ ホテルの**シャトルバスが 15〜30 分来ない**ことがあり、配車アプリを最初から使えばよかった。(1 年) ○ 食事は**味が濃く、脂っこいもの**と**量の多いもの**が中心だった。選べるものが限られ、**体調を崩す**こともあった。日本食を持参すればよかった。(1 年、2 年) ○ 渡航時期が大寒波と重なり、**空港での待機が体にこたえた**。(2 年)

5.2. 4-2 全体に関する評価

良かった点
○ 英語しか聞こえない環境に身を置くことで、**英語へのコンプレックスが薄れ、学習意欲が高まった**。(2 年) ○ 授業や生活の中でたくさん読み、話し、聞いたことで、**英語への苦手意識がなくなった**。(1 年) ○ ほとんど翻訳機に頼らずに通じた経験が、**「自分の英語は海外でも通じる」という自信**につながった。(2 年)

○ 英語が上手でなくても、**伝えようとする気持ちと笑顔**があれば、多国籍の人と笑い合える時間を共有できると実感した。(2 年) ○ **時間の感覚や、自分の意見をはっきり述べる姿勢**など、日本との文化の違いを肌で学べた。(2 年)
改善点
○ 渡航前に**もっと単語を学び**、英語を聞いたり話したりする習慣をつけておけばよかった。学内の英会話の場にも、**出発前に数回通っておけばよかった**。(2 年) ○ 翻訳機に頼りすぎず、**スピーキングの練習を事前に積んでおくべき**だった。(2 年)

5.3. 今後の学生生活への展望

○ 帰国後も**英語学習を続け**、TOEIC の受験や、**英語を使う仕事への準備**につなげたい。(2 年) ○ **英語を使うアルバイト**を始め、スピーキングとリスニングを伸ばしたい。(2 年) ○ **就職活動の面接**で、この留学での経験を話したい。(2 年) ○ ゼミやグループ活動で、**間違いを恐れず積極的に発言**したい。(1 年) ○ 1 年生の早い段階で留学を経験したことで、今後の**英語や物事への取り組み方が変わる**と思う。(1 年) ○ **また海外に行きたい**と思った。単語の勉強を続け、**いろいろなことに挑戦**したい。(1 年) ○ **学内の留学生との交流**や、**国際的な活動**に積極的に参加したい。(3 年以上) ○ **失敗を恐れず挑戦する姿勢**を、これからの大学生活でも続けたい。(1 年)

---

6. 総括と今後の課題

○ 参加者の英語力と意欲:TOEIC® IP の平均は 453 点で、本学が実施する他の短期海外プログラム参加者と比しても高い数値である。**他のプログラムと比して、英語力がある学生層が求めるプログラム内容であったとも評価できる。**

○ **他プログラムの学修目標とも照らしながら、短期海外プログラムに期待される多様な学修目標をカバーできるようなプログラムミックスを検討・展開することで、より多くの学生に海外渡航の機会を提供することを目指す。**

○ **プログラム全体として学生の学びの機会を提供できる環境であることが確認できた一方で、現地プログラム事務局の運営・管理が緩慢なところが散見される。次年度に向けて改善申し入れを行う。**

○ **語学力の向上や発話するマインドの獲得だけでなく、学生生活一般や挑戦する意識など、学生の行動・思考様式にも影響があったといえる。**

○ **今後渡航する学生に対しては、留学中に直面する違和感や違いを異文化という文脈としてとらえ、どう向き合い、考え、行動するか、の絶好の機会としてとらえるよう指導したい。**

以上